



# 友達になろう

## BE A FRIEND

1994—95年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ビル・ハントレー ●第2560地区ガバナー 大島 精次
- 会長——高橋 一夫 ●副会長——石橋 育於
- 幹事——五十嵐晋三 ●副幹事——松谷 昊吉
- SAA——平原 信行 ●副SAA——清水 良一 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477  
FAX 32-7095

### 出席者会員数

会員 79名中 51名

### 先々週出席率

92.00% (前年同期 93.42%)

### ヴィジター

三条南より 長谷川晴生さん、吉井正孝さん  
三条北より 中條耕二さん、山上茂夫さん  
加茂より 大橋栄雄さん

### 先週のメイクアップ

- 6/15 見附へ 榎本 勝さん
- 6/17 新潟西20周年へ 高橋一夫さん、五十嵐晋三さん、石橋育於さん  
松谷昊吉さん、野村竹三郎さん、平原信行さん

### 直前会長挨拶

上木六治会員

皆さん、こんにちは。例会はこの会場では今年度最後の例会になります。この次は会長、幹事慰労会でございます。

今日は生憎高橋会長、石橋副会長がお休みでございますので、私がお挨拶させていただきます。

きます、よろしくお願ひ致します。

今日は加茂クラブより大橋さん、三条北クラブより中條さん、山上さん、三条南クラブより吉井さん、長谷川さん、ようこそ当クラブにメーキャップしていただきましてありがとうございました。

昨年の夏は大変な猛暑でしたが、今年は梅雨入りしてから寒いという日が続いております。天気予報も6月中は雨が降って寒いし、夏も冷夏でないかといっております。そうするとまた農作業に影響が起きるのではないかと心配しております。

**幹事報告** 五十嵐(晋)幹事

◎巻RCより 例会場変更のお知らせがとどいております。(7月1日より)

やすらぎ会館→ホテル大橋 (☎0256-82-4125)

ニコニコBOX ¥25,000 6月21日分

北クラブ 中條耕二さん

久しぶりに和やかな例会に出席し、鈴木会頭さんの卓話を聞かせていただく機会に感謝して。

鈴木さん 奥州平泉及び三陸沿岸に旅して来ました。

渡辺(勝)さん 昨日、胃カメラをのんでみました。無事で安心しました。

五十嵐(総)さん 都合により早退させていただきます。

五十嵐(晋)さん 例会場で最後の幹事報告になりました。ほっとしております。

渡辺(喜)さん 本日卓話鈴木さん、よろしくお願ひ致します。尚、一年間プログラム委員長として皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。

川又さん 鈴木会員の卓話楽しみにしています。

内山(昭)さん 鈴木会員の卓話が楽しみです。又、会長幹事の御慰労を申し上げます。御世話になりました。

寺沢(博)さん 新潟支店へ転勤します。お世話になりました、今後ともよろしくお願ひいたします。

菊池さん 先々週の週報で、テープのおこし誤りがあり、ご迷惑をおかけいたしました。

佐藤(武)さん ①守門に登り、すばらしい眺望を楽しんで来ました。

②鈴木宗資さんの卓話楽しみにしておりました。

**卓話** 鈴木宗資会員

今年度最後の卓話をおおせつかりました。昨日で地下鉄サリン事件から丁度3ヶ月が過ぎました。日本中を恐怖の底に落とし入れ、日本中の人々が憤慨し沢山の投書があったりしました。が、一面斜めに見ますと面白いという大変誤解を招くのですが、放送局や新聞社もそのお陰で大変記事が多かったわけです。いろいろな川柳が出てまいりました。物事をまっすぐに見てまいりますと大変怒りたくなること多いのですが、時々世の中を斜めに見るとということも必要であろうと思います。



今日の課題は“60の手習い”ということですが、私はまず最初に物事を斜めに見ましようということ申し上げます。斜めに見るとどうしていいのかといいますが、まともに見ると怒りたくなること多いのです。前から、横から、上から見たりといろいろな見方がありますが、斜めに見ますと大変面白いことがあります。その斜めに見たのが「川柳」でして、俳句とか和歌になりますと季語がいるとかいろいろですが、川柳だけはどんな風にも言葉を使っても差し支えないわけですし、ぜひ、これから世の中を斜めに見て皆さんに川柳をたしなんでもらいたいと思います。

「円高とサリンでまわす輪転機」これは新聞社は円高とサリン事件がなかったら書くことが無かったと思われれます。又、警備の方もサリンで大変仕事が増えたわけです。「またオウム、されどオウムの視聴率」というのもございまして、誰も知らなかった上九一色村、今この字を知らない人はいないでしょう。「誰知らぬ 上九一色が新名所」という川柳がございまして。又、出家するとか家出するとか、出家と家出は字を逆さまにただけですが「出家せず家出する子は親孝行」これは大変良く出来た方だと思います。「ああ言えばこう、こういえば上祐」というのがはやりましたが、これもよく考えますとああいえばこう、こういえばじょうゆうとこれも川柳になるわけです。大変良くできた川柳で、上祐さんもいろんなことを言っているうちにどんどんボロが出まして「上祐も嘘八百で語呂あわず」というものもあります。これらは私が作ったものばかりでなく、いろんな新聞や雑誌に出ていたものがございまして。サリン事件の最中に東京都知事選挙がございまして、青島さんが当選しましたが孤立無援、たった1人で都議会が決定しました都市博をダメにしてしまいました。「青島が孤島にみえる東京都」孤島にみえる様な状況でございまして愉快的な川柳ができました。

ひと月程前だったと思いますが、三条新聞で皆さんもご存知でしょうが「日本サラリーマン川柳」という川柳のコンクールがありました。その中で、良く出来ていたものをいくつか書いてきましたので、ちょっと読んでみたいと思います。

「ふりむくな 運転中と 化粧中」女性が化粧中や口紅を半分塗っている時に振りむくと化物みたいになります。運転中振りむきますと大変なことになります。親父さんが年中遊びに出ていて、夜遊びをしてなかなか帰ってこない。ところが、最近外でもてなくなったので早く帰ってくる様になりますと「父帰る 娘出かける 妻眠る」という様になります。親父さんがもてなくなって早く帰ると娘さんが出かける。奥さんは諦めていますのではじめから眠っているという状況です。たった五・七・五の中でよくこんなに上手に作れるものだと思います。「イチローを 越したと二浪の 息子云之」イチローより俺の方が偉いんだと二浪中の息子が言ったそうです。一番良くできていると思うのが「痩せてやる

これ食べてから 痩せてやる」というもので、これは女性の心理でありまして、痩せてやろう、でも美味しいものが出てきますと我慢できず、これを食べてからダイエットしようということ。物隠せ 今日娘の 里帰り」これも皆さん覚えがとおりではないでしょうか。2、3年前にできたもので、当時の全国コンクールで優勝したのですが「社訓だけ 残して会社 倒産す」というものです。倒産したというので債権者が飛んで行きましたら立派な張紙がしてあるのです“誠実第一”とか“一致団結”とかの標語だけ残して会社が倒産しました。標語では会社の倒産は救われないということです。

4、5年前に山本福七さんがロータリーの会長になられた時、川柳をやってみないかというわけで皆さんにお呼びかけしたことがあった様に思いますが、その時、私が覚えているロータリーの川柳を思い出して書いてきました。

「ロータリー 気楽に社長 こきつかい」ロータリーに来られるほとんど社長さん達ばかりの人を受けをしろ、お茶を出せだのと勝手にこき使っているのです。その当時リクルート事件というのがありました。江副というリクルートの社長が捕まった事件ですが「海ならば ほこりも出まい リクルート」というのがありました。

なぜ、今日川柳のお話ばかりしているかと申しますと、川柳が一番頭を訓練し、ボケ防止に役立つのです。べつに面倒なことは何もなくて、色々な本や雑誌・週刊誌等にも川柳の欄がありますが、それを見て一つ二つの言葉を変えてやると誰でもすぐできます。五・七・五とたった3句しかないわけ。七の所だけ二つ三つに分けて考えてやりますが、本当に字が少ないからこれを勉強した方がいいのではなからうかと思って皆さんにお薦めしているわけです。これが60の手習いで、ロータリアンの方々、まだお若い方もいらっしゃいますがだんだん腰も頭も硬くなってきます、会社が忙しいから、定年になってから、社長をやめてから……とと思っているうちに60歳になり65歳、70歳となっていく。70歳位になってから本当に何かやろうと思っても、あそこ、ここが悪い、痛いとい医者通いが沢山になってしまい、なかなか新しいことに取り組みなくなるのです。今のうちに、できたら50代後半から自分の第2の人生を考えはじめた方がいいのではないのでしょうか。

昔から晴耕雨読という言葉があります。最近では生涯教育というのがあります。どんど

ん世の中に新しいものが出ていますから、いつも何か勉強していなければついていけない。だから生涯教育をしなければということでしょうか、そんな面倒なことより自分自身が好きな道を選択すれば良いのです。定年になってから死ぬ迄の先は長いのです。私もどこまで行くかわかりませんが、今丁度80歳になりました。皆さんは春秋に富んで居られるわけですが、この長生きの世の中になりますと90歳、100歳はざらだと思えます。60歳ですとまだ40年もあります。この気の遠くなる様な年月を生きるには、今のうちに何か別の趣味を見つけてもらいたいのです。60の手習いもこれからですので早めに早めにやっていたきたいと思えます。

趣味といっても何をしたいかわからないというのが普通だと思いますが、アウトドアの趣味とインドア趣味があります。アウトドアといえますと半分以上の方がゴルフをやっていると思います。私もゴルフは好きでございましたが、80歳位になりますとなかなか思うようにはいきません。できる方はどんどんやっていたきたいと思えます。いい空気をすって動くわけですが、しまいには腰痛を起こすことがあるわけですのでゴルフだけを一生やり通すということも難しいことと思えます。その他に魚を釣るとかジョギングがありますが、走るというのもいい加減の歳になりますと大変になります。一番簡単なのは散歩でございますが、毎日同じ所ばかり歩くのも飽きます。これもできればいいのですが、そうとばかり言えません。たいがいの方はそんな面倒なことより酒と女が趣味なんだという方も居られます。酒はただ飲んでいけばいいのですから簡単なのですが、健康を損なわないようにして飲むということになりますと個人差がありますので、自分の量をわきまえて飲まなければなりません。女性に対してはそれぞれ人生観、道徳観が違いますし、家庭の事情もありますので、どういうことが一番いいということは申し上げられませんが自分自身、それなりに考えていただければ人生が楽しいのではないかと思います、実際は体が続かないというのが本当ではないかと思います。

インドアでやる運動では、ダンスと水泳があると思います。私はプールに行きます。今、水温・室温共に30℃位の温水プールが三条には四ヶ所位ありますので、水に抵抗を感じられずやられたらいいと思います。昔から泳げる方や子供の時から五十嵐川で水浴びされた方は水に対する抵抗はないと思います。それからダンスですが、私もダンスが好きで若い時から正式に習いに行き踊れるのですが、さすがに75歳になってからは、テンポはわかるのですが足そのものがそのテンポについていけなくなりました。80歳近くなりますと普通のテンポのワルツやブルースのような比較的ゆっくりのものはいいのですが、速いテンポのジルバやタンゴというようなものはむずかしくなります。わかっていても、体がテンポについていけなくなるのです。

あと家の中でのことでは盆栽とか絵を描くとか書を書く等いろいろありますが、この中で歳をとってから出来るのは美術鑑賞とか物を作る、茶わん作りとかです。この中にも茶

わん作りが好きでいろいろ茶わんを作っておられる方もおられますが、手作りをするというようなところから入っていただくといいかと思えます。

器物の良否がわかるということはとても人生を豊かにするわけです。皆さんもしょっちゅう料理屋さんに行かれたり、又東京あたりの名家におよばれになったり、有名な所へ行きますといろんな道具、あるいは書画・骨董が出ているのですが、それがわかるということ、わからないということでは楽しみが全然違うわけです。その為にぜひそういう機会の多い社長さん方でございますので美術鑑賞を覚えていただくといいと思えます。

美術鑑賞を覚えるにはどうしたらいいかといいますと、私はお茶の道に入っているのがいいと思えます。それで60の手習いの中の一つ、お茶の魅力についてしばらくお話させていただきます。

お茶がなんでいいかと申しますと、お茶そのものには葉緑素、ビタミンCがあります。普通煎茶でもいいのですが、抹茶となりますと茶筌を1本買ってくればあとは家にあるものですべて間に合います。お茶を入れるものにはスプーンがありますし、茶わんも温泉場かなんかで買ってきた茶わん、いよいよなければご飯茶わんでもいいわけですから、その中にお茶を入れ、熱いお湯を入れてかきまぜて飲めばお茶など知らなくてもお茶をたしなむことができます。

お茶を飲むとガンにならないとか言っている人がいますが、そんな保証はございません。私の知っている茶人もガンで死んだ人がおられます。ガンにならないということはありませんが比較的なりにくいということは本当のようです。私も三条にいる限り、出張した時は仕方ありませんが、町にいる時は抹茶を飲まない日はありません。抹茶を飲む時、毎日甘いものを食べるのです。甘いものといっても洋菓子とかビスケットでなく全部あんこの入ったお菓子で、おそらく皆さんの中であんこの菓子を毎日食べる人はほとんどいらっしゃらないと思えますが、私は黒あんのものが好きで昔でいう蒸し菓子等が好きで今日も食べてきました。いろいろなお菓子のもらいものが無くなった時、家であんこを煮てそれを抹茶の先に食べます。あんこまで作ってあんを食べる、それでは糖尿病にならんのかというご心配もあろうかと思えますが、私は半年に一回ずつ尿や血液の検査をしていますが、まだ糖尿の気は全然ありません。

お茶は総合芸術といいまして、いろいろな所からお茶に入門することが出来ます。一般的には先生について作法を習います。お茶には庭がつきものです、茶庭といいまして茶室の前にお庭があります。庭木の種類も色々で、石畳、飛び石、石燈籠がありまして、石の方からや庭木の方からこの道に入る人も居ります。それから部屋に入りますとお軸というものが必ずかかっています、掛物です。だいたいお茶室には書が掛っています。お茶には拝見ということがあります。よその家に行ってジロジロ見ると失礼な気がしますが、お茶にはそれを見せて下さいという作法があるのです。差し出された器物はどれでも手に取っ

て見られる様にもなっていますので、一つ一つ手に取って見るという習慣をつけられます。拝見する事を相手方に望んでも決して失礼でないというのがお茶であります。この拝見というしぐさが鑑賞眼を高める事になります。拝見ということは決して失礼ではないというのがお茶でありまして、その物をジッと見つめる、あるいはどういう素材で出来ているか、どういうとり合わせであるか、色はどうであるか、形はどうであるか、そういう見極めることが鑑賞眼を増やすわけでございます。

どうか皆さん、これから社会的にもどんどんいい位置になられましていろんな家へお出でになるわけです。そこにはいつも季節のものがあろうし、又その会にちなんだものが飾られております。そういう人を招く家は必ずそういう様になっているのです。決してあだやおろそかなものではございません。つい先日も岩手県へ行きましたが、東南アジアから買って来たと思われる人や動物の大きな彫り物、せともの等が沢山並べてありました。これが300万したとか、200万したとか大変自慢をしておりましたが、そんなものでない良いものが三条の料理屋さんに沢山あります。どうか由緒のあるもの、季節に合うもの、お茶の気持を表わしたもの、そんなものがありましたら、見てもわからなければつまらないので、わからなかったらそこのご主人や奥さんに、又一緒に行った方、わかる方からお聞きしてだんだん見ているうちにわかってくるのです。

古いお坊さんが書かれた物、一行を大きい字で書かれている物等を見ておきますと本当にその人のその字が良くわかるようになります。どうか美術鑑賞眼を高めて頂きたいと思えます。

それからお茶には懐石というものがあります。お茶では何を懐石と言うのか、昔は石というのが料理の大きな燃料でありました。石を火の中に投込んでおきますと石が真っ赤になります。石は大きいものですから中まで温かくなります。その上に少し位水をかけても雑布でふいても中までは冷たくなりません。それで、その石の上に魚を置いて焼魚にするのです。こういう風に石は料理の燃料になりました。昔から薬石効かなくとかいいますが、石を温めて痛むお腹等にあてて温め治しておりました。医学が進歩していなかったせい、そうするより仕方なかったのでしょうか、それでも治らなかったのを薬石効なく…という様になりました。石が効かなかった、石で温めたけど効かなくというような言葉がある様ですが、料理の方でも石で温めるということがあり、料理を温めては出し、温めては出しませんでした。懐石料理は一度に5品、6品も出すのではなく、各自の前に常に一品だけしか出さない、一番いい状態の料理を出すのが懐石料理という言葉になった様です。利休の当時からその様です。料理が最初から5品も6品も並んでいるのは決しておいしいものは食べられない。本当は一品ずつ、又2品位でもいいですが、だいたい出来上ったら持ってくる、食べ終わったら次のものが出るというのが一番おいしい食べ方でございます。先日も広岡さんと一緒に三陸海岸へ行って取れたての魚をおいしく食べてきましたが、見ている前で魚

を料理して出すというのが一番おいしい食べ方です。5品も6品もお膳いっぱいになっているものにおいしいものはありません。

本当のお茶の懐石料理は一品ずつ出てくるのは決まっています。料理の内容は違いますが料理の名前も数も決まっています。ご飯も自分が自分の食べられる量を盛りつけるのが一番本当です。酒も料理もご飯も自分でよそって自分で食べる。出す方も一品一品、一番最高の条件で出すのです。三条の料理屋さんでも懐石料理を食べました。隣の部屋を台所に当てて居りました。運ぶ距離も短いというのがいいのです。遠い台所から運んでいては料理が冷めてしまいます。本当は隣の部屋から料理してもってくるのが一番うまいのです。そういう心づかいをしたものを懐石料理というのです。都会の何十、何百というお膳は決して懐石料理ではございません。会席と書くのはそれでいいのですが、懐の石と書く懐石料理は一品一品、心をこめていいタイミングで出すというのが懐石料理であろうと思い、私はその様に解釈しております。

卓話を楽しみにしておりますというお言葉からしてみますと、誠に言葉が足りないのですが、誠に申し訳ないです、時間がきましたのでこれで卓話を終らせていただきます。御静聴ありがとうございました。

---

三条RC 6月28日例会 会長・幹事慰労会 PM6:30~ 於 二洲楼

---

7月5日例会 クラブアッセンブリー

---

7月12日例会 卓話 第2560地区分区代理 岡田健一殿

---

三条南RC 7月3日例会 クラブアッセンブリー

---

7月10日例会 卓話 丸山嘉晴会員

---

7月17日例会 卓話 第2560地区分区代理 岡田健一殿

---

三条北RC 7月4日例会 クラブアッセンブリー

---

7月11日例会

---

7月18日例会

---